

科目名	GCB II								
科目名(英)	Giobai Citizen Basic								
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	案納賀世子				
実施年度	2019年	実施時期	後期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	介護福祉科2年生								
授業概要	(1)充実した人生を送る人たちの考え方にたくさん触れる(2)力のあるメッセージにたくさん触れる。(3)歴史世界の動き、日本の課題、若者の意識などデータや情報と向き合う。(4)先輩やきらすめーとたちの考え・意識に触れ、自分自身を振り返る。								
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:	<input type="radio"/>	実習:		実技:		※ 主たる方法: <input type="radio"/> その他: <input type="triangle"/>
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		1. 考えることの大切さを知る。			
	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		2. 自分の言葉で伝える大切さを知る。			
				<input type="radio"/>		3. 目標の大切さ、志の大切さを知る。			
				<input type="radio"/>		4. 行動する大切さに気づく。			
テキスト・教材 参考図書	GCB II 学生用テキスト								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	グローバルシティズンと志				振り返りレポート作成			
	2	なぜ志を立てることが大切なのか				振り返りレポート作成			
	3	自己を知る				振り返りレポート作成			
	4	伝える力を学ぶ(1)				振り返りレポート作成			
	5	伝える力を学ぶ(2)				振り返りレポート作成			
	6	与えられた一度の人生に感謝し、心高く生きる				振り返りレポート作成			
	7	自己の大切さと責任を自覚する				振り返りレポート作成			
	8	GCB IIを受講して、感じたこと、気づいたこと、学んだこと				振り返りレポート作成			
	9								
	10								
	11								
	12								
	13								
	14								
15									
評価方法	(1)宿題でレポートを作成し提出する(8回) (2)グループワークに参加し自分の考えを発現する(グループワーク時) (3)3分の2以上のの出席をすること。 成績評価はR評価とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験								
	小テスト								
	宿題・レポート				◎		40%		
	発表・作品				◎		40%		
	出席率					○	20%		
履修上の注意	他者の意見を否定せず受け入れること。 レポートは丁寧な字で記入すること。								

科目名	医療的ケア						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	17時間	担当者	林田朋子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科2年 ・ ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	介護福祉士は介護の中核を担う存在となり、複雑化・多様化・高度化していく介護ニーズに対応していく必要がある。 さらに業務として喀痰吸引と経管栄養が加わり、この授業では、医療職と連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得することを目的とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					喀痰吸引や経管栄養の医行為の一部を業として行うことになった背景などを学び説明できる	
	○					医療的ケアを安全に実施するための基礎知識を学び医療職との連携の重要性を説明できる	
	○	○				喀痰吸引に関する基礎知識、実施手順とその留意点について学び実技に応用できる	
	○	○				経管栄養に関する基礎知識、実施手順とその留意点について学び実技に応用できる	
○	○	○	○			医療的ケアの実技ができる	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央法規出版 介護福祉士養成講座15 医療的ケア</li> <li>中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	18	第3章 経管栄養 第1節経管栄養概論 消化器系のしくみと働き			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19	消化・吸収とよくある消化器の症状 経管栄養とは・経管栄養が必要な状態			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	20	経管栄養のしくみと種類			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	21	注入する内容に関する知識 経管栄養実施上の留意点①			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	22	経管栄養実施上の留意点② 子どもの経管栄養について			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	23	経管栄養に関する感染と予防 利用者・家族の気持ちと対応、説明と同意			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	24	経管栄養のより生じる危険、注入後の安全確認 急変・事故発生時の対応と事前対策			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	25	第2節経管栄養実施手順 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ 清潔の保持			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	26	経管栄養の技術と留意点			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	27	経管栄養に必要なケア			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	28	経管栄養演習 経鼻経管栄養 1回目			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	29	経管栄養演習 経鼻経管栄養 2回目			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	30	経管栄養演習 胃ろう経管栄養			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	31	喀痰吸引演習 口腔・鼻腔喀痰吸引			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	32	喀痰吸引演習 気管内喀痰吸引			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
33	後期授業ふり返り			質問事項をまとめておくこと			
34	後期授業ふり返り 定期試験対策						
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)グループ発表を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。(4)実技試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				75%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
	グループワーク・発表	○	○		◎		5%
	演習	○	○		◎	△	5%
実技試験	◎	◎				10%	
履修上の注意	出席が23回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護過程各論Ⅱ(後期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 2年生						
授業概要	授業の中で介護過程の展開方法を理解したうえで、実習事例体験を通して、個々に合った介護過程の展開ができるようになる。さらに、実習後個別のケースに対して事例研究を行い、事例検討の方法を習得する。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					介護過程の展開のうちアセスメントの方法について根拠を理解し事例に応用することができる	
		○				実習担当利用者に対してアセスメントを実践し、適切に記録することができる。	
	○					介護過程の展開のうちアセスメントから計画の立案までの一連の方法習得し実習に応用できる	
				○		担当利用者の介護計画について実習後根拠に基づき分析を行い、論文にまとめプレゼンを行う。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	事例研究の方法・評価基準					
	17	卒業研究テーマの決定・先行研究、参考文献の選定					
	18	卒業研究テーマの決定・先行研究、参考文献の選定					
	19	事例研資料作成方法の説明・抄録作成					
	20	事例研資料作成方法の説明・抄録作成					
	21	第1稿提出					
	22	抄録(第1稿)修正指導・抄録修正・プレゼン資料作成					
	23	抄録(第2稿)修正指導・抄録修正・プレゼン資料作成					
	24	第2稿提出					
	25	抄録(第2稿)修正指導・抄録修正・プレゼン資料作成					
	26	抄録(第3稿)修正指導・抄録修正・プレゼン資料作成					
	27	プレゼン資料完成					
	28	発表原稿作成・プレゼン確認					
29	発表会						
30	抄録・パワーポイント(文集用)作成						
評価方法	1、提出期限が守られること 2、授業に出席していること 3、授業で説明されたことを理解し、自ら考え、主体的に取り組んでいく姿勢がある 4、根拠に基づき、論じている 5、介護福祉士としての役割を理解し、介護の視点で論じている。以上5つの視点で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品	○		○	○		100%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない						

履修上の注意

出席が10回未満の場合は、定期試験の受験資格を得られない。

<b>科目名</b>	介護実習Ⅲ						
<b>科目名(英)</b>							
<b>単位数</b>	4単位	<b>時間数</b>	160時間	<b>担当者</b>	案納 賀世子		
<b>実施年度</b>	2019	<b>実施時期</b>	後期	<b>実務家教員担当科目</b>	○		
<b>対象学科・学年</b>	介護福祉科 2年生						
<b>授業概要</b>	個別ケアを行うために個々のリズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれをふまえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する						
<b>授業形式</b>	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
<b>学習目標(到達目標)</b>	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
					目標		
			○		コミュニケーション技術を活用した利用者との関りが実践できる		
			○	○	利用者を中止としたチームケアや多職種協働の方法について学ぶことができる		
		○	○		学校で学んだ生活支援技術が応用されている場面を見学し根拠を理解できる。		
		○		○	多角的に利用者の情報収集を行い、利用者理解を深めることができる		
			○	計画的に実習の課題に取り組むことができる。			
<b>テキスト・教材参考図書</b>	実習要項・記録						
<b>授業計画</b>	日数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	利用者の名前を覚え、1日の流れを知る			日々の実習記録の記載		
	2	職員や利用者との関りを通して、利用者の特徴を理解する			日々の実習記録の記載		
	3	利用者自ら積極的にコミュニケーションを図ることができる			日々の実習記録の記載		
	4	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する			日々の実習記録の記載		
	5	介護過程の展開実践のための受け持ち利用者の決定			日々の実習記録の記載・フェイスシートの完成		
	6	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する生活支援技術実践のための見学を行う			日々の実習記録の記載		
	7	コミュニケーションから情報収集を行う。指導者の指示のもと根拠に基づく生活支援技術の実践			日々の実習記録の記載		
	8	他専門職から得られる情報を収集する			日々の実習記録の記載		
	9	フェイスシート、状況シートを記入し指導者からの確認を受ける			日々の実習記録の記載		
	10	中間カンファレンスを開催し、自身の振り返りを行う			日々の実習記録の記載・状況シートの完成・カンファレンスレポートの作成		
	11	介護過程の実践 1日の流れを理解し自ら進んで業務に参加する			日々の実習記録の記載		
	12	課題を元に、介護計画の立案 根拠を理解した生活支援技術の実践			日々の実習記録の記載・アセスメント表の完成		
	13	介護計画を指導者へ確認、指導を受ける 根拠を理解した生活支援技術の実践			日々の実習記録の記載		
	14	介護計画の実践準備 レクリエーションなどの企画運営 夜勤業務の実践			日々の実習記録の記載		
	15	介護計画の実践 自ら考えて様々な業務を見学する			日々の実習記録の記載・個別援助計画の完成		
	16	介護計画の実践 介護福祉職以外の職種について見学等を行い、多職種連携を学ぶ			日々の実習記録の記載・実施、評価の記録		
	17	介護計画の再アセスメントの必要性について考察 昨日の学びを通して、チームケアについて考察する			日々の実習記録の記載		
	18	これまでの学びを通して、施設の社会的役割を理解する 介護福祉士の倫理観や専門性について考察する			日々の実習記録の記載		
	19	介護計画実践のまとめ すべての生活支援技術について習熟度の確認			日々の実習記録の記載・プロセスレコードの完成		
	20	最終カンファレンスを開催し、自身の振り返りを行う			日々の実習記録の記載・最終カンファレンスレポートの提出		
<b>評価方法</b>	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	実習態度		○	○	○		50
記録提出		○	○	○		50	
<b>履修上の注意</b>	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						

科目名	介護総合演習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	案納 賀世子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期/通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科2年						
授業概要	①これまで学んだ知識や技術を統合して、実際場面に適用できる応用力・判断力を身につける。 ②実習後に十分な振り返りを行い、より効果的な実習を行えるようにする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					介護福祉士としての理念、職業倫理、総合的な対応能力が身につけている。	
	○					介護過程の展開が実習の場面でできる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護総合演習・介護実習」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	実習施設発表、定期券申請					
	17	調べ学習、自己紹介表記入					
	18	実習内容、目標設定					
	19	実習の決まりごと確認					
	20	事前挨拶・実習前審査					
	21	事前挨拶・実習前審査					
	22	プロセスレコード記入方法					
	23	カンファレンス記入方法					
	24	帰校日(実習2週目)					
	25	帰校日(実習3週目)					
	26	帰校日(実習4週目)プロセスレコード発表会					
	27	実習日誌清書、お礼状、学内申し送り簿の記入					
	28	実習日誌清書、お礼状、学内申し送り簿の記入					
29	報告会準備						
30	介護実習Ⅲ報告会						
評価方法	定期試験がないため授業、帰校日の出席、授業中の態度、意欲、努力、提出物(カンファレンスレポート、プロセスレコード、実習を終えて等)を評価対象とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	出席				○		50%
	提出物				○		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価対象外とする						

科目名	介護福祉各論Ⅱ								
科目名(英)									
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	吉水 美穂		
実施年度	2019年度		実施時期	通年		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 2年生								
授業概要	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解して、介護福祉の専門職としての能力と態度を学習する。								
授業形式	講義:		演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○		○		介護におけるリスクマネジメントの方法や制度について説明できる			
	○		○	○		リスクの存在について検証し発表できる			
	○	○		○		チームケアの方法と連携職種について理解しチームでの介護福祉士の役割が何なのか 考えることができる			
	○	○		○		労働に関する法律について覚えることができる			
	○	○		○		これからの介護福祉士の将来性、専門性を考えることができる。			
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護の基本Ⅱ」								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	16	健康管理の意義と目的				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	17	働く人の健康や生活を守る法制度				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	18	働く人の健康や生活を守る法制度				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	19	介護労働の特性と健康問題				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	20	介護労働の特性と健康問題				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	21	介護従事者にとってのこころの健康問題				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	22	こころの病気				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	23	職場で取り組むこころの健康管理				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	24	介護従事者の身体・健康障害の現状				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	25	労働環境について学ぶ意義				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	26	労働条件がかかわる労働環境				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	27	介護従事者の労働災害				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	28	介護従事者の労働災害				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
29	これからの介護福祉士				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
30	これからの介護福祉士				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
評価方法	(1)授業中のグループワークへの参加状況 (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	◎				80%		
	小テスト								
	宿題・レポート								
	発表・作品								
	グループワーク			○	○		20%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。								

科目名	在宅介護実習						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	12時間	担当者	案納 賀世子		
実施年度	2019	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科 2年生						
授業概要	在宅で生活する方の、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、生活の場における個別ケアの実際を学ぶ。他職種協働や関係機関との連携を通じてチームケアの重要性を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			在宅介護実習の実際を見学することで介護福祉職の役割を知る。	
			○	○		家事援助・身体介護の実際を学ぶ	
		○	○			実習記録を適切な方法で毎日記載し確実に提出することができる。	
		○		○		社会人としての基本的マナーが実践できる	
テキスト・教材 参考図書	実習要項・記録						
授業計画	日数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	指導者と利用者の自宅に訪問し、介護の実際を見学する				日々の実習記録の記載	
	2	指導者と共に同行訪問し、家事援助等できそうなことを手伝う				日々の実習記録の記載	
	3						
	4						
	5						
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	実習態度		○	○	○		50
	記録提出		○	○	○		50
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						



科目名	生活支援技術・基本Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	田上・豆田・平山		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科2年・ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	基本Ⅰをふまえて、生活支援にICFの視点にもとづいた利用者の生活支援ができるようになることをめざす。 そのために必要な介護技術・援助方法の習得をめざす。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		生活援助における、意義と目的を理解しその際に必要なアセスメント方法を身につける	
	○	○		○		介護技術の理論と方法を習得する	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 6. 生活支援技術Ⅰ 中央法規 最新 介護福祉士養成講座 7. 生活支援技術Ⅱ 中央法規 見て覚える！ 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	応急手当(田上)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	応急手当(田上)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	応急手当(田上)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	応急手当(田上)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	応急手当(田上)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	応急手当(田上)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	休息・睡眠(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	休息・睡眠(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	休息・睡眠(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	人生の最終段階(平山)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	人生の最終段階(平山)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	人生の最終段階(平山)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	人生の最終段階(平山)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	人生の最終段階(平山)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	人生の最終段階(平山)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	生活支援技術・応用Ⅱ(後期)						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	田上・吉水・案納・豆田		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	介護福祉科2年・ソーシャルワーカー科2年						
授業概要	障害の形態や状況に応じて、利用者のニーズに応えられる介護支援を行えるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					国家試験過去問に正答できる。	
	○		○	○		疾患を理解した介助、安全面の配慮ができる。	
	○	○				疾患を理解した生活上の困りごとを説明できる。	
	○	○				家族や本人の背景に配慮した自分の見解を述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座 生活支援技術 ・中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	31	腎機能(案納)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	32	腎機能(案納)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	33	腎機能(案納)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	34	腎機能(案納)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	35	肝機能障害(案納)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	36	肝機能障害(案納)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	37	肝機能障害(案納)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	38	精神障害(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	39	精神障害(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	40	精神障害(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	41	精神障害(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	42	精神障害(吉水)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	43	高次脳機能障害(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	44	高次脳機能障害(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
45	高次脳機能障害(豆田)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)演習を行いレポートを作成する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					50%
	演習		○	○	○		20%
	レポート	○	○		○		30%
履修上の注意	演習時忘れ物をしないこと。評価に関わる項目で、意欲的な取り組みが見られない場合は、欠課扱いとする。						

科目名	家庭生活(調理)						
科目名(英)	Family life (cookery)						
単位数	1単位	時間数	10時間	担当者	大仁田 あずさ		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	介護福祉科 2年						
授業概要	我が国では高齢化の進展及び疾病構造の変化が進む中、厚生労働省は「健康日本21(第2次)」において、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会を実現するために、健康寿命の延伸・健康格差の縮小、生活の質の向上などの目標を設定している。そこで、本科目では、介護を必要とする人々が自分らしく健康的な生活を営むうえで重要な食支援の基本となる知識と技術の習得を目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:	実習:	△	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					食文化や食生活の変化、疾患と食事、食生活に関する施策について説明できる。	
	○					五大栄養素の種類とはたらき、食事摂取基準の意義とその活用について説明できる。	
	○					食品の保存、食品衛生、食中毒の種類と原因、食中毒予防について具体的に述べることができる。	
	○					高齢者・障害のある人の身体機能と栄養、食品選択と調理方法について説明できる。	
			○			利用者に正しい食支援を行うために、自分自身が健康で豊かな食生活を実現することができる。	
テキスト・教材 参考図書	介護福祉士養成講座編集委員会編集 『最新 介護福祉養成講座6 生活支援技術Ⅰ』 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	食生活の基本知識(食文化と食生活の変化、疾患と食事、食生活に関する施策等)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	栄養の理解(五大栄養素の種類とはたらき、食事摂取基準の意義とその活用)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	献立作成、食品選択・購入(献立の立て方、食事バランスガイド、食品表示、食品添加物)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	食品の保存、食品衛生(食品衛生の意義、食中毒の種類と主な原因、食中毒予防)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	調理の基本、調理操作(調理の準備、食材の下処理、調理操作、食品の調理性)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	高齢者・障害のある人の栄養と食生活(身体機能と栄養、食品選択と調理方法)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	調理技術Ⅰ(実習) 一汁三菜の日本料理(高齢者にも適応) 【実習内容】翡翠の香り飯、さばの幽庵焼き、沢煮椀、みぞれ和え、フルーツヨーグルト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	調理技術Ⅰ(実習) 一汁三菜の日本料理(高齢者にも適応) 【実習内容】翡翠の香り飯、さばの幽庵焼き、沢煮椀、みぞれ和え、フルーツヨーグルト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	調理技術Ⅱ(実習) 中国料理(高齢者にも適応) 【実習内容】五目炒飯、酢豚、とうもろこしのスープ、杏仁豆腐				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	調理技術Ⅱ(実習) 中国料理(高齢者にも適応) 【実習内容】五目炒飯、酢豚、とうもろこしのスープ、杏仁豆腐				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート	○	◎		◎		10%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	家庭生活(被服)								
科目名(英)									
単位数		時間数	10時間	担当者	鈴木 綾				
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	介護福祉科・ソーシャルワーカー科 2年								
授業概要	誰もが身につけている被服は、身体を保護し生命を維持するために欠かせないものでありますが、それだけでなく人の尊厳を守り自分らしく生きる意欲にもつながる大切なものです。とくに高齢者や障害者は被服のサポートを受ける面で、個人の気持ちを置き去りにされてしまう場面が多く見受けられます。利用者の心と身体の状態に合わせたサポートが出来るようになるように、また被服の取り扱い方の基本的な家事力を身につけることが出来ること目指します。								
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	△	実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○					被服の役割を説明でき、様々な種類の被服の取り扱い方や管理の仕方を説明出来る。			
		○				個々の身体の状態に合わせた被服の問題点を理解し説明することが出来る。			
			○			利用者の尊厳を守りかつ安全な被服の選択が出来る。			
			○			ボタン付けや服のほつれを限られた時間内に手早くできるようになる。			
			○			利用者の求めていることを理解し相手の立場に立った助言が出来る買い物の同行をする。			
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 介護福祉士養成講座6 生活支援技術 I								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	装いについて考える				生活支援技術 I (121頁)褥瘡の原因と具体例を事前に読んでおく。			
	2	福祉の衣料品について							
	3	裁縫実習 基礎縫い				教科書の該当頁を読んでおく。裁縫道具(縫い針、糸、待ち針、糸切ハサミ)を準備する。			
	4	裁縫実習 基礎縫い				"			
	5	裁縫実習 基礎縫い				"			
	6	服の素材・洗濯・しみ・漂白について				教科書の該当頁を読んでおく。			
	7	障害当事者ゲストスピーカーとワークショップ				レポート提出			
	8	買い物サポート実習				レポート提出			
	9	衣類・寝具の衛生管理について				教科書の該当頁を読んでおく。			
	10	小テスト				授業のすべての内容を理解しておくこと。			
	11								
	12								
	13								
	14								
15									
評価方法	試験は授業のすべてを網羅した筆記試験。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	○	○	○		100%		
	小テスト								
	宿題・レポート								
	発表・作品								
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。								